



第73号

2020年2月28日発行

発行⇒郵政産業労働者ユニオン中国地方本部
Tel&Fax⇒082-244-7719
piwu-chugoku@abelia.ocn.ne.jp
http://www.piwu-chugoku.net/

郵政産業労働者ユニオン中国

20春闘
大幅増員・均等待遇が急務

かんぽ生命の不正営業が社会問題となり、日本郵政・日本郵便・かんぽ生命の3社長が辞任しました。かんぽ生命に関わっていない社員に対してもお客さまからの風当たりは強いと聞きます。全社を挙げて職場改善が急務ではないでしょうか？

そのような中で迎える今春闘。中国地本としては、労働条件の低下は一切認めない立場で臨みます。中国支社へ提出した20春闘要求の中から要点のみ紹介します。

減区が全ての元凶

昨年から計年を取得するという名目で減区を行っている局が見受けられ

ます。特に劣悪な局では毎日減区ということ、交通事故や誤配・苦情がかなり多いとのこと。信頼を失っている「郵便局」のイメージを益々悪化させる減区は即刻中止するべきです。休暇が取れないのであれば大幅な増員を行うべきです。

また、募集しても集まらないとのことであれば新規採用を増やせばよいのではないのでしょうか？

そこで、地域基幹職、新一般職の20年度採用者数と21年度採用予定者数を明らかにしていたいただきたいと思えます。

差別のない職場に

新型コロナウイルスが

世間を騒がせています。病気や怪我というのはいつでも誰がかかるかわかりません。長期間雇用社員に正社員と同様の有給病気休暇を与えるよう本社に要望するよう要求しています。

また、不明瞭な正社員登用や昇職について不安な声をよく聞きます。長年貢献している非正規社員も多くいます。長期間雇用社員からの正社員登用人数を明らかにするべきです。

60代は働き盛り

定年が60歳から65歳に変わりますが、近年60代はもはや高齢者ではないように感じています。事実、65歳を超えても働いている仲間も各職場にいます。そこで、65歳を理由に雇い止めを行わないよう要求します。

無意味な競争

昨年末、前社長の記者会見で「ノルマ(年賀はがき)はない」と言い切っていました。実際はどうだったでしょう？金券ショップには年賀はがきが溢れていましたし、ネットでも多数売買していたことは誰もが知る事実。かんぽ生命問題もノルマが一因だとの専門家の発言があったことから、ノルマは必要ないと考えます。

特に、年賀はがきやかもめぐるのような独占商品を、社員同士・局同士の奪い合いに力を注ぐ意味がわからないとお客さまからの声もよく聞きます。仕方なしに局員の知り合いの数だけ分割して購入している会社やお客さまがどれだけののか把握しているのでしょうか？自己中心的な経営手法を早急に改めて欲しいものです。